

法面緑化による労力の 省力化(グリーンベルトの推進)

関宿地区農地・水・環境保全管理協定
運営委員会（野田市）
(仮称 関宿水環境保全会)

地域の概要

●集落の位置や特徴

- 野田市の北部に位置し、利根川と江戸川にはさまれた水田地帯

●広域組織の概要

- H19年度から関宿地区の15集落をとりまとめ、発足
- 取組面積は193ha（田163ha、畑30ha）



草刈りの様子

取組の経緯（草刈りの省力化）

●背景

- どの地域でも課題である、農業従事者の高齢化、後継者不足による労働力の低下は避けられない問題
- 特に、水路の維持管理である、草刈り、野焼きにかかる労力は年々負担が多くなりその解消に苦慮していた
- そんな時、本事業が開始され、地域の水路法面の整備に着手した



野焼きの様子

取組の経緯（草刈りの省力化）

●センチピートグラスを採用するまでの経緯

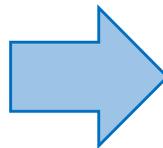
- 当初は「ヒメイワダレ草」を植えたり、「センチピートグラス」の苗を植えたりしていたが、**管理が不十分で、結果雑草に負けてしまった**
- 「他に何かないか？」と模索していたころ、「芝の種を吹き付ける」という工法があるとの情報を得、早速検討し、比較的少人数で実施できることから採用に踏み切った

取組の内容（草刈りの省力化）

- センチピートグラス（カバープランツ）の法面への植栽による草刈りの省力化
 - センチピートグラスの種をパルプ片とともに法面に吹き付けるという工法
 - 現在、**15,000m²**が整備済みであり、次年度も**2,000m²**の実施を予定



種の吹き付けの様子



播種後

取組の成果（草刈りの省力化）

- 作業軽減 地域総出での作業が数人に減少
- 景観の向上 「きれいになった」と地元からの評判がよくなった



取組のポイント（草刈りの省力化）

●失敗の経験

- 苗を植栽してのやり方は、自治会長の指揮のもと、地域住民総出で行っていた
- 自治会長の任期が2年と短いため、引継ぎが十分に浸透せず、結果として失敗に終わった

取組のポイント（草刈りの省力化）

●失敗の反省を踏まえた工夫

- 失敗した経験を経て、地域から4～5名ほど「環境委員」を選任し、全ての管理を委ねたことにより各位が責任をもってやってくれるようになった
- 常に管理を委ねる「環境委員」の選任については、自治会長に選任を依頼し、自治会長退任後も新しい自治会長とともに環境委員に就任することとした
 - 作業内容の継承及び委員数も増員
- 環境委員の日当は他の日当より増額（規定を制定）
 - 一般作業 時給500円 環境委員 時給1,000円
- 法面草刈り機を導入し、環境委員責任者宅に保管することにより、いつでも除草作業ができるように（年に3～4回）

取組の経緯（遊休農用地の解消）

●ひまわり畑

- 本地区は昭和50年代より、県営圃場整備が行われ、それに伴い「義務転作」の課題が課せられたが、本来稲作地帯であり、転作作物の選定に苦慮していたところ、「互助転作組合」が設立され、景観美化を兼ね、ひまわりを栽培した。

取組の経緯（遊休農用地の解消）

●体験圃場(ビオトープ整備)

圃場整備地域の端に位置し、所有者全員が非農家であり、小面積であることから、20年以上耕作されておらず、荒廃農地になっていた。

幸い小学校に隣接していたこともあり、所有者より借り上げ、半分をビオトープとして整備し、残りを小学生の体験圃場として稲作(田植え・稲刈り)を実施している。

取組の内容（遊休農用地の解消）

●遊休農用地の有効活用

- 遊休農用地にひまわりを植栽し、ヒマワリ祭りを開催
- 小学生への食育教育のため、遊休農用地を活用し、農業体験圃場に
- 広報誌を作成し、小学生への食育活動や農業施設管理などの活動内容を地域住民へPR



ヒマワリ祭り



田植え体験

取組の成果（遊休農用地の解消）

- 農業体験を通じて地域の子供たちの農業への関心向上
- ひまわり祭りはNHKでも放映され、地域の一大イベントに
- ヒマワリ祭りや小学生への農業体験を実施することが、**地域住民の活動への理解増進、多数の参加につながった**



苦勞したこと（ひまわり畑）

当初はマスコミにも取り上げられたが、それにより見物客が増加し、クレームも多かった。「トイレがない」「駐車場がない」等、本来観光目的でないため、それらの要望に応えることは困難であることからマスコミ報道は控えてくれるようお願いした。

又、転作奨励金等交付金が減額されたことにより、作付け者が米作に移行するようになり、面積が減少してきた。

その要因は、ひまわりを作付けし、用水(パイプライン)は利用しなくても土地改良賦課金は水田並みに納入しなければならないことも挙げられる。(現在は多少減額されている)

集落の今後

- 今後集落ではどんなことを目指すのか

農業者の高齢化、減少化は年々進捗することは確かであり、**農業施設の維持管理の継続は益々困難**になっていくと考えられる

特に、法面の草刈り作業は一番労力を要すことから、法面の整備は今後とも継続していきたい。

今後は「除草シート」の導入も行い、**一層の省力化も図りたい。**

管理困難力所(傾斜が長い)
への除草シート導入

